札幌・里塚斎場、山口斎場

# 友引火葬 どうする

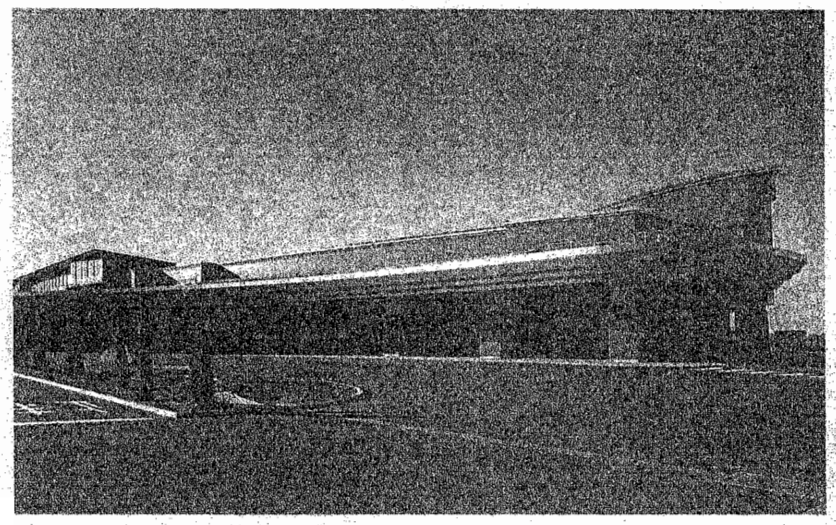
## 市民に抵抗感 開場派も5割 件数増加 市は「いずれ決断」

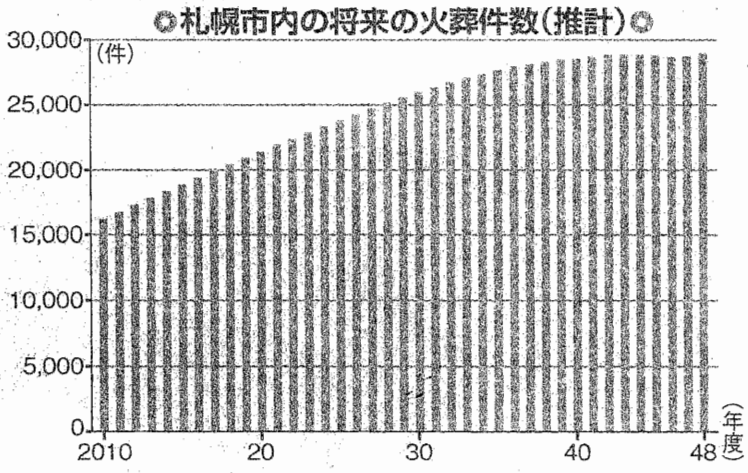
「友引の日に火葬したら、友を引く、つまり親族らを道連れにするから駄目なんや」。十数年前、故郷奈良で祖母の葬儀の際、当時大学生の記者に父が言った言葉だ。慣習にこだわる奈良育ちの自分にとって「友引に火葬しない」が、暗黙のルールだった。だが、近年は高齢化が進み火葬件数も増加している。火葬場2カ所を抱える札幌市は、現在休んでいる友引日の開場について検討を進めている。関係者に話を聞き、その背景を探った。（紺谷武史）

1日19・8件。札幌市手稲区の山口斎場（火葬炉29基）の友引日の1日当たりの平均火葬件数だ。同斎場は2007年12月～09年3月の間、冬季に限り特別に友引も開場していた。清田区の里塚斎場（同30基）が大規模改修工事に入り長期休場を余儀なくされ、冬場の混雑が予想されたためだ。ちなみに、09年度全体の1日当たりの火葬件数は50・8件。

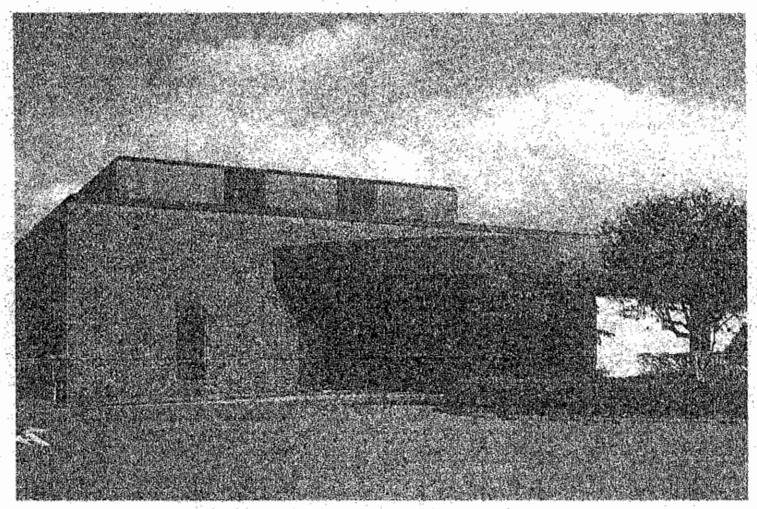
「長年の慣習から、友引火葬は1日数件と思っていた。予想外の数字だった」と市保健所の宮本啓二生活衛生担当部長は振り返る。かつて平岸斎場が稼働していた1984年までの約40年間は、友引も開場していた。参考データのある1978年～82年の5年間、同斎場の友引火葬件数は、1日当たり1・9件。この低い数字を背景に、市は火葬炉の維持・管理のため、山口、里塚両斎場の休日を友引に設定した。

友引火葬に対する市民の意識が変わったのか。






㊤2006年4月にオープンした山口斎場
㊦大規模改修して昨年4月に再開した里塚斎場（ともに札幌市提供）



友引開場を求める市民団体の市議会への陳情などを受けて市は、09年7～8月、20歳以上の市民1万人を対象に友引開場の是非についてアンケートを実施、5153人から回答を得た。それによると、友引火葬に「抵抗がある」（17・3％）、「やや抵抗がある」（33・1％）で過半数に達しており、抵抗感の強い市民が多いことをうかがわせる。「抵抗がない」は34・4％、「分からない」は13・8％。

一方で、友引に火葬場を開けた方が良いかとの問いには、「そう思う」（47・6％）、「そう思わない」（18・1％）、「分からない」（32・2％）と〝開場派〟が5割近くを占めた。

市は結果について「市民の間でも意見が交錯している状態で、どのように解釈すべきか悩んでいる」とし、市内の葬儀業者や火葬場の意見を聞きながら、検討を進める構え。

仮に友引開場に踏み切った場合、財源問題も浮上する。市の概算では、友引にいずれか一カ所を通年開けた場合、約1億円の追加経費がかかるという。また、定期的に必要となる維持管理の日をいつにするか、という問題も出てくる。

とはいえ、高齢化の影響を受けて市内の火葬件数は年々、増加傾向にあり、市の推計では約40年後には現在のほぼ倍となる＝グラフ参照＝。市も「いずれ、友引開場を決断しなくてはいけない日が来る」としている。

ほかの政令指定都市はどうか。市の昨年11月時点のところ1日2件程度だが、友引明けの混雑緩和と、友引を気にしない市民ニーズにも応えたい」。

札幌市内の葬儀会社間でも、考え方が異なるようだ。ある大手葬儀会社の社員は「友引にメモリアルホールの見学会をしているので、友引開場は困る」。西区の小規模業者も「花屋やバス会社にも影響してくる。現状維持がベスト」と話す。

一方、別の大手葬儀会社社員は「数年前からお客さまの友引火葬への抵抗感が薄れてきていると感じる。葬儀会社は大変だが、開場が望ましい」という。

札幌葬祭業組合の中島浩盟幹事長は「業者間でも意見が割れているが、市は数年のうちに友引開場を決断するだろう。ただ、やるなら代休なしでお願いしたい」と訴えている。

札幌市議会に友引開場を求める陳情を2006年、09年に出した市内の「葬送を考える市民の会」代表の沢知里さん(53)に考えを聞いた。

「葬送を考える市民の会」の沢代表

## 個人の価値観 尊重を

はじめに断っておきたいのですが、私たちは、友引火葬を市民に勧めているわけではありません。葬儀は個々人の価値観が大切と考えています。だからこそ、友引を意識しない市民に、その日に火葬できる選択肢を与えてほしいのです。

友引とは大安、仏滅と同様で日々の吉凶の占いをする暦です。友引は元来、勝負なしの引き分け（共引き）という意味でした。でも、いつからか友引の字が当てられ、死者が生きている人を一緒に連れて行ってしまうと解釈する人もいるようです。

もちろん、友引を不吉な日と感じるのも自由で、そう思う人は友引に火葬しなければ良いのです。でも、キリスト教徒には何の意味もありません。ましてや早く火葬して、悲しみに一定の区切りを付けたいと考える遺族もいます。火葬が遅れることで、葬儀費用が余計にかかることもあります。市はそうした側面にも配慮してほしいと願っています。

◇

同会は年に数回、葬式について考える講座を開いている。7日午後2時から、苫小牧市の苫小牧アイビープラザで無料講座「ひとりでも安心して最期を迎えるために」を開く。申し込みは同会☎011・261・6698へ。